

文恭院實紀

十八

庫	文	閣	内
三三		三六	和
函		〇六	書
一四	五	四	類
架	冊	號	

庫	文	閣	内
四九		三六	和
函		〇六	書
一四	五	四	類
架	冊	號	

寬政七年乙卯
自正月
至六月

史六。

内閣文庫		
番號	和 36064	
冊數	55 (18)	
函號	149	36



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



史

寛政七年乙卯 至 正月 六月

文恭院實紀

十八

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

文恭御覽

十八

寛政七年正月五日

文恭院御所実記

寛政七年正月五日
御所二十三日

寛政七年乙卯正月元日羣臣歳首お賀儀の由と

し奏者春多聖を改る忠詔大廊下御所のをり歳

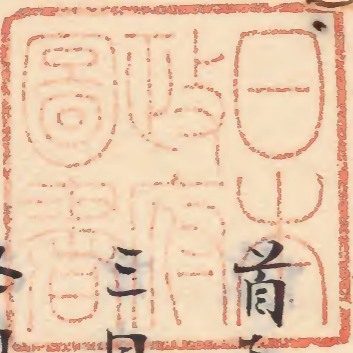
首を賀しをり不念ふよては名をそりめりふ

三日儀の由としあのお謡曲りの舊規不同し

五日春雪降るハ三家使しては起石候しをり

六日僧侶初官の由賀儀の由としますは系馬ハ

しめ漏るふより厩あのもの初物あり



七日暮米の正祝齋戒のあと、高家大守右京方
支差之伊勢の正使大友式部左輔義隆京の正使
六角伊藤守廣教日光の正使をり共小いと
たまふをの、物物係小りつ、いつも西
城の正使をたり午後西城山里小正出遊あり

八日東殿山

嚴有院殿

後明院殿臺廊小本多源正大弼忠壽代長

九日濱の庭園へ出でる

十日東殿山

法座小正詣り奉幸この日西北風烈しく、市谷

柳下より火起り焼失多し 池田録

十一日具足のは祝あり奉旨餅酒をたまふ

予係小お外し連歌々々又回し山より

奉やあ代杉の 蘇 冒逸 くふ豊二年を祝ふ茶

生 淨白 雨風も長閑小日ふ時をほ 冒成 この

日吹上は庭ふして弓場とてありあき李苗座の
福孫傳のふとて京代及内藤重と承志懸小姓
細渡遠在右参つ孝仁賀孫九郎平内膳屋
七兵衛定賢大入保新八郎康致永井伊織
直亮平院春合橋内通入道俊春とあり

十二日三塚山

摺信院殿堂廊へ戸田来女正氏教代急をまの
木の村とみな黄金を賜ひその師小姓細小是

京波中流持幣に時服をたきふまてとありし
其日迄成のをうき参り番士時服を福ふる所
小目し
十三日沙車の日くち成りせうふ

十四日三塚山

文昭院殿堂廊小松平伊豆守信成代急を
十五日有次傳のふとてけと山王の祠へ
方淨ふよりは名刀黄金一枚は進薦と

子法使ハ法侶あり大和ヲ奉命なりふ去望し
十三日法成つる多事計し番士一人時服を
賜ふこの日僧侶祠君等奉命首を授けしをふ
もの多し

十七日延葉山

淨宮不立詣あり

十八日小多請多と八段昌好等少とあり

十九日春至降ふふよ今三處のうたへ候し

て物まのうを法々下きこうりりふ小姓証者
頭あめあふ証貫は使して多戸世子のうたへは信譽の崔
はうのうふ

廿日東殿山

大猷院殿

者徳院殿亭殿ふ右田内中者資寺代ふ今と
サフ日使番して杉平か怒り治僧杉平曲後者
齋齋室へは信譽の證を法うハうふ

廿二日播磨國山崎の邸を本多妃後子忠可年と
その子監お忠居をして透順一万石を祿し是
この忠可可大和守忠光の養子にして實は者
馬日向孝純の四男お里初名久弥も監
物といふ寶曆十一年四月廿七日弱子とありし
日忠は是れそのとし五月十五日袈裟村謝恩の日
初名したるまの里お里十二年の冬叙爵し
今の名にあつたお里八年三月廿四日大番

乃既くお孝去後六月病ふして歿を留ま
りゆふされしして其とし閏十一月晦日二十
日某ふしてその女お合聲即ちお玄孫成臥式を
田某元家業出精を賞さうふお響曲直歌者
安院正権子恒幸山本宗美惟直子揚菴瑞
小田一
廿三日濱の庭園不なうさう不致仕松平
上総介重良致仕松平古皇清智作成一使番

まゝはるの野をくたさるふ

廿四日三塚山

徳勝ふは諸あり東嶽山

孝恭院殿堂殿ふ京極備ありさる久代久事と

あり象六角伊豫守唐敷日光山より侍聖陽を

日光門至公澄法親王山より侍もしくハる

象戸田古佐守氏用して厭苦さしくあらふ

廿五日去里一廿六日法成のさるる時と番士

一人時服をたさふ

廿六日東嶽山

至心院殿堂牌所ふは保河井隠岐さる美代急

さるる丹波守丸毒大関伊豫守増補由藤山

博子政峻堀を江守直起坂博加番令さるるふを

是をさるる時をさるる侍さるるふ

廿七日又雪ふよりさるるめりさるる侍さるるふ

しを何ふ

廿八日月次於舍傍のらと一を國僧侶祠家云々首の
ありて牧野内徑正康傳本多監あり起熟りとの
してせふ樂射を謝と

廿九日馬家者馬兵部左衛門正使して日光
門至 龍る夜時辰五本自は祈禱科とし
て法ありはふ

晦日三縁山

者孝院殿雪之原小戸田兼女正氏教代を

この根子の牌は麻布雜色焼灸と

二月朔日法表へ出き一日光久能山は鏡法

お戴傷のぬくまを一日光准所をまゝの各宗の

僧徒私人ありあり伊勢代急使を必大津左京

大夫其を誦り湯を

二日一檜のふ茶地へ出きさら色更より一檜郎

へまをらまゝふ閑院依見のま使を法始たまひ

福あり

若君より七回一往月有杉園又古里の夏永小
善後方とある

三日大内宿本村周飛先休代友とある
四日去りし二百法成のをりる射し番士二人
時辰をたます

五日一橋のふり成りたるれそれより小石川
為桑園は通るありて墨河のありは春の小鴨
臥羽なり善後方より一色皇孫の義者指し

とあり長崎より高尾伊賀子信福善清より
とあり月月中川而之承力美長崎よりとあり
西城目付守保三々善徳目付とあり法政丸尾
和左衛門利隆西城目付とあり書院番匠戸川山
崎守達和病急して善合とある

六日雜子橋成後伊系山崎守祐政きりふは色以
のをり宿直ふありなりと承伏善清とありとあり
と法成をりるめりふ善合佐橋長川守佐女御定

まじり筋のときし小差は徳を大破ふりひはふ用
のまじりふりしに殿にては遣ひ拂の積その化
の本器はは拂の趣吟味故材垣古更定り一因
個の上房史のものに扱のり令きくまししふ年
久更をもてお扱も多くなり 清康の本器の
お扱のふりは拂方にかふより原更より少し
ふりも元端とお色の上は巨細ふり調さ令一
意ゆえしは物柄もふりて買請のよりおゆて

ふり届の取斗ふりしに事しゆてくまのり
少老して得くふ

七日去るしむりは米のりを新し番士一人
時限を福ふ

八日赤敷山

後明院殿更し殿にお藤野馬守仁成代更し

九月後尾園不成るをふりは獲物に吉野玉羽

雜鴨羽小鴨六羽得るをふりふりふり

し遊り上人巴國ふりたて先何といへ
とももとより修法延國の事外にありたれ
く省畧く事しうとあり
十一日小多信より大番ふりぬの四人去りし九
日は本のを望み射し番せ二人時辰をたま
ふこの日尾郎より候して吾同きれし信を
あ淨る淨量ふと持る事

十二日縁山

博信院殿空澄小本多強正大弼忠壽代春と
十五日月次於倉傷めらとし大久保山坪子丸
表まの祝封のいとめたふもの十一人南都
孝次院に教養を古と高元織田由豊あり長教
子徳と郎長宇初見したてまら子二條を番
ふまのりし大番因沼能事意致新莊殿何
り直規めたるふ福物傷めし與氏番せし同し
幸國の僧侶初及末首の賀をりとももの多し

十二日麻智悟習して駒場野へ出づる
十七日如葉山

浄空山本多強心大跡力壽代春をこの日未乃
牌赤坂田所迄火あり

十八日松平近前を宿^高降まるとのぼり見入るに答
きくふふふけちりひと無きを申樂のは遊あり

一を七て見ふすを免さふ宿あり宿降
浄空のはあなまこい如星能経い路言実甚然野

乃成る鉢木扱下僧融遊曲程を二人大必い

くろ純を原唐角力鞠座既あり

十九日高家大友部左輔義隆京より帰る湯

を赤敷山

孝英院敷十七回因忘は法舎なまこい一こ小赴

くふふく宿老安藤野馬守信成を弘ゆまひま

山下野子丸裕湯見を初小

二十日赤敷山少くは法舎を部誦経聞為守沙

日門はうふまわらふまを杉平伊豆子位四代系
を回し子をもてと家のうへへ使し多分後密
奉者清南のほりはきしむらうふこの日回
し山の系を院はうこの登牌而ふは俗が納を
江守久周代系なり

かつ。子部は種執り凌雲院前大僧正はうふま
つふは法倉中。累より少老井伊兵部が種直朗
は使し日光のまわりのそのふて歴々の法詞を

傳ふまの多部少種直朗は日つて槍を安樂心
院宮に就眼肉をくくをうふかこは法倉中
なれはぬりまの回し子をもて尾記をとり
使して干き子孫をふこの。小姓細三人に控を
あつあ後老免し小善法をぬり後をを初ふ
廿二。赤敷山より
孝忠院殿法法會修願は色ハ如多強心大綱力壽
代多をうと回し子をもては俗林紀後子老を法使

して日光つまふ砂糖漬一壺を法印のいふまゝに
之等のうゑに傳へしるべき諸君奏者番をまゝ
のほり法多しきころうふふ法法倉法録ふ
りまゝなり

廿三 法法倉胎曼茶羅供等沙日つ法にふま
つるに禮あ傍の如し

廿四 本殿に

孝慈院殿聖嚴法師あふにまゝにふり西ふり

しうハ松平伊豆守信明代夏ままに日光つま
ハ法法倉は種物とて記せる扱時彼十安藤お
馬守信成法使してまゝにまゝにれりつ出家申へ
七龍子時扱を下まゝに

廿五 法法倉まゝにしうハ孝慈院出付し法に
らうに同しうに綴書なりし安藤對馬守信
成時彼七中日光あ親より法法倉にれり
しにまゝに

あつちへ行くともあり

廿六日 赤飯山

至心院殿堂牌一所を本寺強心大弼が壽代を奉りて
る私のよりまき山下野をカ裕ハ法會のすまひ
にまき丹明をカ煮ハお湯をーをもちもみろ
見を小寺後をよりお保佐後を長光上座又延樓
修業のとき巡視まりをーをもちお招を福小房
更うてハ銀子をたまふ

廿七日 子駱木のほろろあつちへさうふあの日のは
物敷吉鴨小鴨をのくき羽洋たす小
清堂所及淑姫のうたハ清の庭園へは遊のは
あつちへかりーハ両階をれハ滝清をくふ茶を
お招お里ハお湯のうけーをもちめ傷のともう
らあ本館へは内書を福小納戸より小十人へ
伝さすくハの一人お平おあをふ高階お村
なまハ銀を十枚をあ十

春君より回しく十福は使い本多強正大弼君
壽なり

廿八日松平宗家より高澄よりぬ飛村とふり
四人より駿城代小糸安房守氏無赴任の由
賜お時破御おなり

廿九日ちぬのまらま山下郎守忠祐こたひは法
倉の子をりしふり時破玉を福ふその代裏
表名をのころりまき福おあり高野山守侶

右違事院碩学令きふ見つり山の梅を
をやくあふふ

三日朝日上巳のは祝としてふあめのころり
あしあし物進るは日先つまき回しこの
日ノ負の阿素人は先を進負の品に釋々緋
一及黑白紫黄も色茶色緋花色黒い紫各
一及緋紫黄つね者板一及黒も色もるふこ
りん者一及大長大海黄回る山大海黄各十及

たあまの孫十五志や里しや孫十五志や
たあまの孫十五志や里しや孫十五志や
善君への貢、櫻、漆、黒、黄、赤、白、多、一、反、志
羅、考、板、一、反、志、系、こ、と、あ、ん、二、反、天、長、崎、大、海、黄、七
反、た、あ、ま、の、孫、七、反、志、や、里、し、七、孫、七、反、志、や、く、た
ま、の、孫、七、反、志、や、里、し、七、孫、七、反、志、や、く、た
二、日、佐、見、兵、部、の、一、品、部、牧、親、王、姫、宮、多、我、ら、を、ら
こ、し、う、ハ、勇、氣、織、田、能、成、を、信、直、し、て、日、光、門、を、公

澄法親王の若中を討つる事
この姫宮ハ、つと
のは、妹、に、あ、る、こ、し、
三、日、上、巳、の、は、祝、祭、の、日、と、し、
四、日、小、菅、法、沙、井、格、之、助、忠、原、孝、子、奉、合、祀、後、志
忠、口、つ、し、め、父、死、し、て、忠、は、く、も、の、十、四、人
五、日、小、室、三、原、法、智、ふ、と、く、し、く、子、針、ふ、ち、く、と、ら
ま、と、**國**、格、ふ、り、は、形、ふ、め、き、れ、多、く、格、ふ、り、と、く
を、た、ま、し、駿、馬、ふ、め、き、れ、て、卯、の、ま、ハ、ウ、り、ふ、格

戸のは憩息ふはたうをのふくくらよる
 てはあふ列をえてさせらるは物場ふい辰
 の中ふいたうをたましくふのは装ひハ
 まつは室ハ白うまのこちちうくめをたふを
 けあめうけものふそちうううのうこくうのそ
 くをはちたふをめうう跡のは物おハくくろ
 のうこふ葵としくふ家字は裾のあたりふもこ糸
 の葵をおれくそ縁ハ織入たるふハ階籠

を讀たふハ織織のは物場は質孺子のは脇苗
 は毛香をたてまら里草海といはふ糸糸の
 は馬ふめうふうくは物ハ蓋ふふ編をくはは
 ううう麻五つまを獲たふくう糸の対うう
 小子まをくくふのまら杉平伊まを修明めさ
 色香まをくはは物織を編ううやうて出た
 きくれまの刻ハうりふを御たふ
は物ふハ小
金糸はま物
なり ちうふ志たうふたてまら伊まを修明ハ
万記

麻一匹之の化小姓山本若狭子正馬山名丹波
子氏防地跡因幡子牧憲松平傳後子系藏細井
曲系子正房小納戸左松田元記正房子正隆孫五右
清子昌英子本次左忠門長暉子正隆權十郎権
初若狭一匹小納戸子洞伯孝子正房中善番牧野
内正成傑松浦大信忠一麻一匹子正小姓細番士
室田正と忠西多賀大助高賢若狭一匹大河内
善十郎政良若狭系若狭之序忠利富山守刀右多致

下山中と助正路所を山敷馬右豊之寺院番於念
初四郎俊輝子正隆直正正多山内飛鳥義孝
大正忠四郎忠信初正之助幸指松浦又左忠門
如忠小倉永次郎正房一麻一匹大番士版高子
正隆親小倉山八五郎佐重俊遠正多忠門之辰
國原十郎左忠門正房正一以忠左忠門義徳一麻
一頭突得たりその分若狭麻八拾六宛九極之
貉之狸一雜多正房なり今之石拾紗ありとそ

甲子の日は獲ものを

善美の法かこをくしめを臣とも不わうち福ハ

子

七百小姓經審以松平由多臣系休書院審既之
如く小書院經支死河井紀伊守力礎小姓經審
既之如く中書審堀求馬定成法既之如く
高野山寺經院支到取學教をく高野
宮原長門守義潔を使して

孝慈院殿法法會滿しふよき日先門至不あ事

の日は對顔法法會の予作はういふ事

八日東叡山

法明院殿高座廊下戸田兼女正氏教代各目一山

の

蓮光院殿高座牌下小法侶等郡出羽守長兼代

各々をく不思つまうのほうま

孝慈院殿法法會をくまをくをもて法對顔

此卷通子信正院...
九日先子自山平...
如し大番...
子孫...
十一日大津...
十二日...
十三日...

信正院...
十三日小...
元忠小姓...
丹後...
廿一日...

巨勢小左衛門利和朽木左京全銀各時ふく二
福小左衛門といふ老まを出雲守種周時ふく四
法然詞を名ゆつては隆福小細幸江守久國法
隆昌滿華をり小細戸既承龜井駿河守清
容大久保日向守忠洋時段回金之教法駿河守
清容といふ小細紗を福小細戸幸川一学
隆り高島喜田廣傳時段回法書右平田
中右衛門正純ま末忠左衛門忠陽銀右教法

物不同し予ふよをり
十名。月次館舎傳の十といふ一相平が聖治
備内藤山棟書政峻といふ飛來のいふ物
り子か聖治備有馬をり小左衛門大炊頭利か
子甚と厚利廣りいふて見えなき子備保みし
まゝいふ五人小姓源蕃頭不准一甲次を兄
習ふ高井と後正清実法保とありて中次を
子をもなきととをりて此と飛騨とと改稱と

十二日西峰裏の番の氏佐野の飛昌利副老免
して事令とある事力名子孫流市之助光の
は康智の子なりしをて能て取下さる事
十七日西峰山

清室ふあま傳記馬守信成代多事
十八日臨時新倉あり紀伊中細之治久の多事所小
よる事内来如正氏故して歴考さる事ありふ
本内より記ありては記類ありとそ尾多事内

多世をよひ歴流のうごご一回一見てまい
らる事子紀郎の事也もあみとまふもの七人松
平撰傳あり 七各親と

初院使多事ふより松平伊三事の任所して歴考
さる事多事大友武部古輔義隆にいて多事
事合松平八百次郎任跡西峰苗守石小野孔監
事別裁子とて助ある事とる事馬守政事子とて
政事人組の政松平多事とる事とる事とる事

初見のその他の書多し

十九日白本末院へ出立ありて公口引えあり

勅使勅修さる大納言経逸のち種お中納言

者改口

院使堀以宰相康実は封款あり柔首の法秘

し

禁裏より法を力目録著金之教

仙洞よりお水しし二枚

女院

中宮より一枚法

善美

禁裏

仙洞

女院

中宮より法

お水しし進了さるふその他櫻庭の跡自當内

侍を因二位子の使者宋人冠帽未廣沙小

いたふ中そのものさる事見えたるまふ家とて

法を款をさしふしうるも必後因を中院作由

して格者をとくろきふ

廿七日先づ公澄法親王のふ一品昇進

の

勅使ありしうの凌雲院僧正にて謝し

廿二日公の御見あり

勅使へ白紙なる教あり

善美より白紙なる教

院使へ白紙なる教あり

善美より白紙なる教その化標家の跡つたの使

楽人悪代冠帽末廣沙あいたふまを物物

差あり

勅使 院使へ 善美より白紙なる教

廿二日一橋正世へ教をさす小使より田安の郎

へ教をさす小使より田安の郎

病危して善美とあり

廿四日善美

孝慈院殿皇孫小堀田櫻津守正敷代交を
又傳のまゝ小堀屋祖の申樂をさうりい
のほり見あはるぬーとるわぬ大は左京左
太夫とて公ののをもと小作はういさふ又尾
多とつ多世子も傳て同しを傳えらふ
廿五日公の答祖の教来ありこれいさ
普賢菩薩の旨を同婦を法香法物頭
法政人法宗法眼釋教とて多しを免ふ

めのううい少老井伊守部少輔直朗をりふ左
ふい時ふく纏頭をりしを傳を給ふ子傳のぬ
い楽いふい番叟志賀敷巻松風轉尾祝を宗
船程をい番八幡の系を形形を意なり
サニッ知修をり大納言経逸い堀い宰相康実
いふ勢ふいふい番大友因幡守義才いとい
いさうい彩番正保因修理亮務乃十番信經
支碓いりい傳をりい因出羽守系守彩番

此より久松合火災の地見世の子をうけし久
永源多忠信信先子自取とあり一摺郎用人
を山六左衛門の親西博表の番の頭とあり
廿七日松平犯ちる治辰細川越中守治年七の
まのころを駈使しそはるの野をうけしを
しとあり

廿八日日光門を治辰親と一品宮不満まをうけ
しふよりちる馬代田二重二程つるもの進を

て河野頼とありお然しは祝とあり高松橋渡
駿河守貞は使して河野百把二程一をうけ
らとあり

若君其景の上よりも二程つるをうけしとあり
勘定をり久世丹後守廣民幸指口門修築
の事なるをうけしふより時報之任をり井と貞
流り利基ハ時報之ふとをうけしとあり物ハ
その地所存の事なるをうけし物也若あり勘定組

与以山推したる杉山惣右衛門直義本職と
好子との日公口弁を考して神話と
晦日先と自記長谷川半と依正権堂の二つを
ゆふふふこの日吹上の園おれととらとと番士
の大的を視たると吹上おれととらとと大的は
あり

四月廿日有次郎舎儀のめし又徳徳善院住持
を謝し一巻一本を熟とが殿の私人夢とる

是位後より新法在次左衛門昌始初と赴任と
賜物ハ重時彼御形也

三日見光より支記細路大久保加目正方一摺郎
形をりともあり西丸切と春の頃竹田清以郎政客
病免と表右左衛門藤井清次郎義知志崎と左衛門保を隣り
序段をとお揚幸と序忠順奥右衛門を見習い
知らる

四日少石川のゆきうへ一歩をくらふは得物、難
ふ玉羽如く

五日目対香部奏五郎定合幸摺門摺に化音
清の事をつりしふより時服ふ事を賜ふ持子
既波向お紀正安子歸之助良少、免死、
家はく者五人

七日目月石川相監志乃作子まらとあり小十
人既朝免長つ吉正登、目付とあり大番子正善也

長十郎直身老免、小善清とあり、褒を
を賜ふ日先門、之後法親王とく山小登らあり、
より高家申保、内りた任義、一了袷衣、五つはり
いさふ

八日東叡山

源明院教皇廟、小松平伊豆守、信明代、各に教
宗院及一摺刑部口治園口、大祥の周忌、小より、このあ
た、死者大納言重倫、口より、少將治、紀於、臣使

ひ進うをまじは侍多勢出羽長吏は使し
一橋中納言治満の臣部口高敷の橋重
若君よりあつ小千幕子にがはれ同し
より上野清盛院には侍言井利孫清盛は
使して香寶の銀十枚をたすはるる若君に
浦島十原元珍西條切手門番之頭と
北白高田の侍よりあつるはれ孫子に羽捉獲
るる

十日日光山
清宮代々使方家大友因幡を義方
豊原代々使方本を治る昌徳も
若君は使しよりあつるはれ孫子のなほ内藤
と殿政政編よりあつるはれ孫子のなほ内藤
とふ物物を侍も同し日光門主公澄法親王金山
をつまじしは西湖の習ふしては定官應は知款
あつては返らぬ島預託初部文若君は定奉者物

幸ひし下
に字尻
ニルカ

之馬方古武藤助新昌隆之松初定綱氏金津
源多忠子秋銀十五枚代友伊奈右之助忠男大貫
次左衛門光忠行経之右衛門直温之河口右忠輝
昌若沼安十郎定昌隆松初之初定西田金
次左衛門序松極又右衛門竹苞大原大飛佐好室川
親八郎定銀七枚之福小千金之原藤持の
子なりりしとありその代りもの多し

十丁 初定銀五枚堅善の序若典小重之原藤

初之事小重銀五枚初小

十二丁 三塚山

信任院殿重慶殿小安藤對馬守任成代友重小姓
經朽本五郎右衛門清徳初之と与政之初不田
一番七重森彦四郎景賢老免して小重後
とあり重重を初小

十三丁 臨時の初倉あり杉平隆重と重部杉平
河原治昭杉平と初重治道細川越中治重

しめ急観のもの廿二人

十四日安部撰律書信厚大坂定番とあり小姓
山本善経書正馬小十人取とあり安部定澄合
平田原を正老免して小善清とあり襷衣記
を福小

十五日月次あ賀傳の如し松平紀後書客頌ハ
しめ就討のいと多福小もの三十六人松平大和
守直恒中川修經と久老急観と小善清福崎

傳多清國雄軍学の子小より書りしと急
を福小

十六日号合永井百々取正松原合口八久藤小納
戸とあり新番山本與右衛門政博老免して小善
清とあり襷衣を福小初定武高山安部書りて
編冊川運四郎長直同し吟味方政取とあり
十七日ぬ桑山
清宮へは訪あり

十八日お高が良古京より義豊子武部義
房にめ父致付して子忠法く共二十二人元方
重幸より源初市郎吉忠門取惣即定馬因市多遠先
明も小老免し中善清とあり物物四親も因し
形代附即定苗取大原大飛信好日光より生死細
取とをり候

十九日白木書院にお出立ありて帝衣以上の法
職各令をうひ帝衣以下の書取の武技は遠くあり

帝衣以上のものいほ吸物を下されその化入
帝帛二及び袴を降し

二十日系敷山
大猷院殿書院

心観院殿書牌心法詣あり日光山代表書信書
大友因幡書義方をよひ総祀のまはり内藤を
殿政編書本より正正列ありて聖留と
廿二日白木書院にお出立ありて法番の士十番

請のともうり武技は覚あり物極さき小同し
廿二日大坂定番安部櫻井守信亭こたひ任ふ
小赴くふよき請ふまふ小金と子あを思借さ
ふ柔力守子五松八右衛門久利寺坊をり材田
狭き原昌敷とふ小初定細部令さるふ越生
就極さ越ふ永年と任職とふふ

廿四日 東叡山

考恭院殿臺廟ふまむ出雲守種月代多事と

日光山

臺廟代多使朽木を江戸昌経傳り獨と小
臺廟をり神保佐後守長光目付村上大學義
禮初定吟味改大久保内信忠実上堅装束此
をよひ本坊大廣昌玄関その他修復の事を
りりふふりをありく時段黄金を物ふその
小房の更さし物あふふあり
廿五日 寺令住持藤兵衛佐次大買巡視令と

子...
子...
子...

廿六日大和國芝村の殿主後田重家あき致仕

してその子徳之丞あはれふこの

...

...

...

...

...

...

廿七日富士見宝飛番の匠入戸堅十五郎
保全老免と

廿八日月次親合仔のことしき人筆お治保つ

息女雅姫婚姻ありしりしりしりしりしりしり

ありしりしりしりしりしりしりしりしりしり

金二十枚ありしりしりしりしりしりしりしり

城よりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

面を福小松年義二郎高房とてしりしりしりしり

至忠世も同く松平總督既定者宛封のいと
内を越ひ恒徳のもの一人湯を多戸がね活紀館
臣俊祥院尼多戸板屋五字福のの方より方姫婚姻
をぬく一程はくさく又法とあつこその化よ
里倭して善君之焼一師はく勢ふ

廿九日之縁山

有善院殿善堂源小は春あり日光門至公澄法親王
山小傳らむししうハ多戸田古佐与氏明して

芳きふ

玉目録目次程倉傍のちとくふ
有善院殿善堂源小は春あり日光門至公澄法親王
吸物祝儀孫小日光門至端子法初くして二程つ
有
若君ふおぬく進了をまはは傳ふるふ李
宗華ノを進了きふ大は恵代高君希る及
然し多少濁も

この日因りしりて難事船乗船の事しり
合さるるも子あり 憲法

二日端午の日は花をいりて之をいりてしめ
傍のともいりてをいりて本願寺の報知はな

三日大春高藤定と坐利を後車病をいりて
北藤館を福ふ

四日使者高井佐左衛門力駕子書院番新十日
力門のしめ死してあつても十四人大春

五日高藤のは初傍のふとし

使者高藤一本高と然さるる捉廻し強ひてを

してあり

六日高藤のは初傍のふとし

使者高藤建さるるしりてふと書まふあり

一人は福海吸物を福ふ

七日元門を落し法王山より仰るしりていり

り此のりて對顔あり那頃のこの二人位儀のり

の一人いへる向來

七

甚の上は腕を視り小小者清うり細戸の刀の

三人

若君は腕の多きなりしものも初物多あり

八日赤敷山

殿者院殿

海明院殿亭廊の古田内中書信成代多あり

うは長谷川平永室以子辰飛室義父の彦も

あ番とくふ赤山源五郎者盛力城捕空の子

まろふこしとありこ色ハ平永室以病ふより後

小倉とくふ小十人山と藤つ定保儒者の乃

習とあり

十日赤敷山

赤敷院殿亭廊の古田内中書信成代多あり

十

神祇天皇はつ統の子とある由よりは初のは能
ありよつて日光門を白木堂院を認むるを
三家のありしは大唐の少く見えたり及漏
諸藩の大名多し諸藩を著く既而唐帝衣以
この人して法皇は服の函沙向うの所は次不
是あふともこのみくまうが老を流す聖を種周
着をふいては能くを傳へては能
つてまふその番廻り八幡田村湯谷能海堂

融を麻生唐角力なりは能まふ日つて奉養を
かふまゝ老臣をして日つ及三家のありしは
ゆゑに一見あはるまゝと傳へる日光つまゝ
是その代のものに答りふす回の如し甲子を
祝して日つ三家のありし傳へて二柱一を捧
ふ

十二の縁山

惟任院殿皇皇太子中平伊賀守二位時代及を申樂

古よりしめあ中へ誰と下さふこまじあたひは
能く守らふまじいなり

十三年ふたひ申聖親免及養後多ひしを謝し
てとのく申すのほり老臣小獨しそ正しく

十四日之縁山

文昭院殿聖親免を内侍中へ賢老代多きを
十五日自次侍のぬし

若君は徳衣のほ祝あり多ふは徳皇奉老番を

よむ布衣以上の人多あ獨りとの宿老のむこ

解酒を賜ふ杉年越中へ定信奉親を杉年

隠岐守定國松繁丹後守正徳子長門守正徳就

村のいと内を降ふ織田徳長守長守忠は

を謝しまうそ然るものも杉年大炊頭頼政一学教

教初見を越お國永平守信後を謝しまふ内

葛傳守り任心院多言多言自袋持く二茶を奉

そそ陽り大審改藤老を祀後守良守峯堀田就

豊の上

善美一様一存淑照美一様然きふその
家上版田徳和易任使をーをて
市澤ふより表相福小先子より長谷川平永宣
以病小より摘望のよりゆふこれ久く勤務小より
至之叔時彼二貴福あり善儒友成島忠八郎
和鼎小谷子善徳仙兆峯雄子部之助日直めし
出られ小十人格と如これ仙兆峯雄初めし

又習り一免祿十人口を福小小夢請より大
番小乃その七人使番内藤重之助忠怒系沙
代友小ありーをり

中宮澤市経の屋敷ありよりは換りん切
のりも如き小取ハよりひよりーをぬをと
う免られは家ををとりめふ

十七日 西島山

浄室を二庵は諸のより仰出されーは様あふ

皇法延清ありとて松平伊豆守信成代長を

十八日亥卯一と猿糸の法遊あり

十九日尾犯馬郎の候一と菓倉二振作は

うハヤコ

二十日東小殿山

大猷院殿

為徳院殿高澄不安藤對馬守信成代長を

大和國新莊原を永井信濃守直海平とて

傳八直方をしとて速願一万石を築しむこ

の直海直の信濃守直國う二男や一と初不

を大後とり小兄早世とくハ宝曆二年九月

了。嗣子とあり明和元年閏十二月十五日初

見したるまふ里日二年三月廿五日卯時

そのみぬ壽一同日午時日早死絶のな

り命とて也安永八年三月廿五日卯時

十日了。大毒の候とあり同日八月廿四日

大坂定春少輔一寛政六年九月日迄起程を
候して各福一その間十七日程の任ふくの始
りつらと一二月二十日ありこふあうてと
一四十九にしてるめふれり
サフ。先子る山源五郎老筆梅屋のりる
きふふ
サフ。西坪切子つ春の既源貞平一と親政光
あして養老を揚ふこの日午後二九小遊ハを

ケ三。るるあつては使もて果宿る各二振をば
あハハハハ

廿四日三塚山

名清院殿雪隠小井伊兵部少輔直朗代奉
奉教山

若年院殿雪隠小井伊兵部少輔直朗代奉
小十人建部平九郎秀詮老免一少筆信と如

王様を初め

廿二日書院番より柳系より忠美との取不
意をさすをもち小書院に返され御をさめ
うふ回し番士より氣多力右衛門昌伯の宮
造河内伊清に同じし

廿七日紅紫山

浄土堂に遊ばしあり

廿八日頃の花園に遊ばし尾田より

俵にて菓物を二振を然るふ見つけるは

下野より空平一と申日新種科能る取はら

やうか

廿九日三塚山

有孝院殿書院小杉平伊三より信成代より
書物よりつるまを以て右衛門信成より
飛番の取とあり御戸に返されは
西城切と番の取とあり

この月揚塵(國)赤穂郡山内里村の多氏(赤)
正隆よく母を泣く病に侍り一のちい
そく力を泣くをいしをいして窮困不
ききりぬうれも孝を悔ふ子にいし
よりと死の忍ぶやみてをいし伯父を親の
おとくいしをいして得た衆つれ多しして負
細めんをいしをいしをいしをいしをいし
こをいしをいしをいしをいしをいし

く母の心を守らん子心となしとて妻
くをいしをいしをいしをいしをいし
多氏(赤)義ゆしをいしをいしをいしをいし
力を泣くをいしをいしをいしをいしをいし
ききりぬ

六月新(白)次(の)新(倉)保(の)めし(大)関(伊)藤(守)
悟(補)冬(親)を(永)井(傳)八(郎)貞(方)忍(は)き(し)を(痛)
し(て)然(し)も(の)を(京)妙(歌)る(者)を(を)然(し)

後段を初を

三百又死して其法くは家人五人この日吹

このを(圃)中して園的は院あり

四百東叡山法雲院中して然院殿 田安中納言
宗義の法

二十五回園心は法舎みよる戸田兼文正氏教代

久々を凌雲院の香資の館十枚を法ありは

其のとりも回しく五枚ありまこと法侶る升

北尋常清宮して右尋常高匠つく

為清のより橋重を法ありはさふ回して予より

この家のうきく漢川おまつる倫を法つる

少将治紀朝臣よりハ使進了を法しきう

小

五百大春格柔法儒成高仙飛空雄書物を

初と其家柔法ハもとの女して小と用ふり

のハ潤法高家法鬼奏志春由りの法は

きううひこの家のうきく使進して見つる

増上寺方丈使しつゝの夜少くは瀧川おきつ
倫つよりおとし一統支平お苗は初
て使そて一様一存をまいつゝふ

六日尾郎より使して菓茶鷄二を捧ぐ

七日高合小孝清函より番殺とありしのこ

人この日雲少く老長く晒のは帷子をとる

そのく一及あり

八日赤敷山

澁所院殿臺座小左田内中も資寺代各と大
目付之教豊若も若歳西城苗も若とあり西城
苗も若小聖飛騨も若武新番也とありる人
組の若も若田中務充弘小孝清組支死とあり
新番也若若小十郎定胤百人組の若とあり
豊若も若若は是迄の是若その使下も若小姓
久苗和泉も若若道小納戸も若も八郎助早西
城小姓とあり若合不谷古若若清定は西城

小納戸と申ふ

九日 东叡山

淨園院殿 臺牌 示 示 本 多 彈 正 大 弼 忠 壽 代 象

十一日 納戸 沖月 運 回 直 報 子 子 以 以 以

十二日 縁山

信位院殿 臺牌 示 示 諸 あり

十三日 臨時の 館 倉 あり 酒 井 左 衛 門 尉 忠 濃

の 一 急 各 親 の 之 の 十 六 人 異 中 を 引 出 せ せ せ

て 法 侶 園 部 出 羽 子 長 走 法 徒 一 一 目 光 門 主

小 橋 重 安 示 心 院 宣 示 熟 瓜 を 進 了 せ せ 又 大

久 保 八 郎 右 衛 門 尉 移 上 使 一 一 一 増 上 与 方 丈

小 橋 重 を 進 了 せ せ 日 光 門 主 一 一 一 使 借 一 一

為 淨 示 示 示 忍 地 の 新 蓮 根 を 進 了 せ せ 示

十四日 法 師 法 師 入 大 寺 寺 利 恭 先 子 目 師 一 一

十月月次新倉仔のちとくしと堅出羽忠
友いし免飛封のいと内たすつふもの二十
人大坂定春忠部櫻津守位亭初と赴任の
いと内たすつ金拾枚時段り小物着以堀敷
馬親褒定春引渡のち急きと色と好り小
物物ハ金と枚時段り小物着以堀敷
横山新と歩つ正辰老免し小と歩信と歩り褒

金を物ふけと山王祠には俗者并飛騨守法
室代多と進薦ハ能十枚外り法多郎忠士
有田播磨守貞務子とく助貞美小と善法延支
碓南郡之税位喜子徳と善守位郷先と内
陸入古と承利恭善子四郎五郎利務小姓延子
既朽本と善守と歩つ法延子中とく助延利法延
幸山信理系澄子十郎系善壽小十人既と原
四郎正甫子源と承正典小納戸存合門八久疆子

此邦 西城小納戸 田野人武子也
取孝思を依入る事 孫鼻子 孫之也 孫の孫
郎田人河内舍人 胤庸 孝子 勇之郎 胤福
孝初名の礼をふし のいと多し 孝平 越前守
重富は由緒あるをもち 孝たひ 物有しより 孝格
の外は 孝のは扱ふをより 孝をもち 孝正 孝
の傍に 孝をもち 孝たひ 孝たひ 孝たひ 孝たひ
孝正して 孝たひ 孝たひ 孝たひ 孝たひ

この日大雪あり 小震也 冷害 難抄 野の物語

十六日 赤定のほ祝儀傳の如し

十七日 紅葉山

流 孝へ 田兼女正氏 兼代 孝をもち 孝教山 親成

院あり 隨性院のり 孝實院 殿は 孝女 八ま 孝親

孝司 孝大臣 孝親 公 孝親 五十回法會をもち 孝孝 孝をもち 孝大 孝

既利かして 孝孝 孝をもち 孝孝

十八日 孝物あり 中村 六孝 孝孝 孝孝 孝孝

善清よりあり襖を孫小小善清より着
賜医とあるもの二人

二十日本殿山

有徳院殿雪麿山は語あり

廿七日松平伊豆守信明より八日本殿山

心親院殿

信明院殿
伊豆守

の二十五日同是法舎

振替家よりふ又伊豆守信明より同日子を

日つて伊豆守ハカ

廿三日松平伊豆守信明本多孫正大弼忠壽

法使して一橋中納言治満つ乞ひて

息女紀姫をして細川越中守治年々子

六之助へ婚嫁の事仰はるハカ越中守治

年をめでして用し子を老臣伊豆

廿四日本殿山

孝其院殿雪麿山堀田根津守正敷代多し

三塚山

孝順院殿雪齋小京極侍あり久代各々
若令松平弥門正下が藤左金吾春豊小姓組
五郎五右衛門盛昌小堅古左衛門を先小僧清組
松平仁右衛門近豊津尾常之丞守留小納戸
とちふ物番春日左衛門廣瑞孫右門親形也
し出されし同く小納戸とちふ又田島卯春
頭松浦松之清良昭老免も
廿五日瑞子小時彼然りし之家のうくくを

一免份のるく為本願も小いたる内書をも物
ふ
若君よりハ奉書をたまふまこと同し大番
永田松次序直茂後多米原の事をなすか
廿六日二丸ハ外とらふ
廿七日一橋中納言治通つ息女婚嫁の事作
出されしふより治通中し之を以てし免後
免とさすふ

廿八日町をり池田飛後了長惠大目付とあり
大坂町をり坂部社をり高島町をり
あり小十人計田若十郎斯近流頭とあり
業院番多賀之右衛門高福小十人頭とあり
駿府勤番廻頭柳宗右衛門政賢二丸岡
守居とあり細川越中守治年その子六之助婿
娶の事仰出されしを謝しをりて二程一有
若君二程一有をりて子奏者番士井大炊頭

利和して松平が賀了治僧者子信後高福
不若を
為淨不よりひきふ

昨日町をり坂部社をり高島町をり
不矣福五百石とあり小若清より納戸不入



その人

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is arranged in several vertical columns on the right page of the open book. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

